

# 小径木等の生産利用実態調査（第Ⅰ報）

（昭和61年度）

昭和61年度～63年度 県単

前川 滋  
菱田 重寿

## 要 旨

作業班を有する県下の14森林組合における60年度間伐材生産について、その樹種別、事業別生産量、間伐材の主たる用途別、処分方法別取扱量、小径木処理施設での製材品目別生産量並びに県下4木材市場での60年度市売実績から小径木取扱いの実態を調査した。その結果、次のようなことが判った。

- 1 間伐材生産量はスギ66%、ヒノキ34%で県下の間伐対象林分の樹種構成比と非常によく似ていた。
- 2 間伐材はその90%以上が製材用で、自己処理施設で加工されるものは約1/4を占める。
- 3 小径木処理施設では正角が70%以上生産され、正割、小幅板、平角が夫々10%以下でこれに次いでいる。
- 4 木材市場の中で、設楽、新城は小径木の樹種、長級、径級別構成及び材の流れ等は単純である。東海では前者に比べ多様性を示し、足助は両者の中間型である。

### Ⅰ 目的

戦後、積極的に推進された人工造林の結果、造林地の多くは現在間伐期を迎えており、間伐の推進が重要課題の一つになっている。一方、代替材の進出等による木材需要の低迷の影響は付加価値の低い間伐材等に大きくのしかかっており、間伐推進のネックにもなっている。こうした中で、これら小径木の生産、利用の実態を調査し、小径木の利用拡大を図るための基礎資料を得ようとするものである。

### Ⅱ 方法

1 地域林業の担い手は森林組合であるという前提にたつて、県農地林務部林務課林政担当とタイ

アップして、森林組合経営動向調査に独自の調査項目を加えて、60年度における、ア 森林組合における間伐材生産量 イ 組合の取扱った間伐材の主たる用途別、処分方法別の間伐材量 ウ 小径木処理施設を有する森林組合での製材品目別生産量を調査した。

2 県下の木材市場の中から、地域、市場の経営形態等を勘案して、東海木材相互市場大口市場（尾張地域、会社組織の複式市場、以下東海という）、愛知県森林組合連合会足助林産物共販所（西三河地域、森林組合系統共販所、単式、以下足助という）、設楽町森林組合（東三河地域、単位組合の直営共販所、単式、以下設楽という）、

新城木材市売株式会社（東三河地域、会社組織の単式、以下新城という）の4市場を選び、60年度の素材市売実績（特売を除く）から当該市場での樹種別、長級別、月別の総取扱量、小径木の樹種別、長級別、径級別、月別の本数及び材積、小径木の出荷者及び買方の住所及び業態（業態は東海は除く）を調査した。

なお、今回の調査では、標題の小径木等を素材の日本農林規格にいう14cm未満の素材及び間伐材一般ととらえ、(1)の調査では間伐材を対象に、(2)の調査では主伐木の末木と間伐材とを区別せず、径14cm未満の素材を対象に調査した。

### Ⅲ 結果と考察

#### 1 森林組合における間伐材生産量

(1) 調査結果は表-1に示すとおりで、作業班を有する14の森林組合の生産した間伐材は14,199㎡で、販売事業によるものが40%、林産事業によるものが60%を占めている。

(2) 樹種別にみると、スギが66%、ヒノキが34%を占めているが、これは3齢級から7齢級までの県下の蓄積の構成割合（スギ65%、ヒノキ35%）とほぼ一致している。

(3) スギのうち販売事業によるものは41%、林産事業によるものは51%を占めており、ヒノキでは販売事業で37%、林産事業で63%を占めている。

これからみると、スギでは販売事業と林産事業との取扱比率の差が少く、普く行われる傾向があるのに対し、ヒノキでは林産事業に多く偏っている。これは森林所有者自らが間伐を実施する場合、林道近くのやり易い所を先ず行い、良い材だけを搬出するためではないかと考えられる。即ち一般に林道は沢筋に多いこと、沢筋はスギが多いこと、スギはヒノキに比べ成長が良いこと等により、林道から遠いヒノキ林の間伐は森林組合に委託されるようになるのではないかと考えられる。

(4) 販売事業のみを取扱った森林組合の数は2で、その平均取扱量は173㎡である。林産事業のみを取扱った組合の数は3で、その平均取扱量は1,540㎡で、両方を取扱っている9組合の平均取扱量は1,026㎡（販売事業587㎡、林産事業439㎡）となっており、林産事業を単独で行っている組合の取扱量が際立って多くなっている。

#### 2 森林組合取扱い間伐材の主たる用途別処分先別数量

(1) 森林組合で生産した間伐材の形状（長級、径級、曲りの有無等）から判断した主たる用途を製材用、足場用、杭支柱用に区分して樹種別に調べた結果は表-2のとおりで、スギ、ヒノキとも製材用が殆んどで、足場用、杭支柱用の小丸太は全体の8%にすぎない。

表-1 森林組合における間伐材生産の実態

（対象：14森林組合）

樹種	総数			販売事業による取扱			林産事業による取扱			総数(14,199㎡)に対する比率	
	組合数	素材材積	比率	組合数	素材材積	比率	組合数	素材材積	比率	販売事業	林産事業
すぎ	14	9,377	(100.0) 66.0	11	3,850	(41.1) 68.4	11	5,527	(58.9) 64.5	27.1	38.9
ひのき	13	4,822	(100.0) 34.0	9	1,778	(36.9) 31.6	12	3,044	(63.1) 35.5	12.5	21.5
計	14	14,199	(100.0) 100.0	11	5,628	(39.6) 100.0	12	8,571	(60.4) 100.0	39.6	60.4

表 一 2 森林組合取扱い間伐材の用途別・処分先別数量

(対象: 14 森林組合)

樹種	用途	自己処理施設での消費				県森連共販所での販売				民間市場等での販売				計			
		組合数	素材材積	比率	対総比	組合数	素材材積	比率	対総比	組合数	素材材積	比率	対総比	組合数	素材材積	比率	対総比
す	製材用	6	2,358 <sup>m</sup>	(27.7) <sup>%</sup> 82.5	16.6 <sup>%</sup>	11	2,290 <sup>m</sup>	(26.9) <sup>%</sup> 97.9	16.1 <sup>%</sup>	8	3,868 <sup>m</sup>	(45.4) <sup>%</sup> 92.6	27.2 <sup>%</sup>	13	8,516 <sup>m</sup>	(100.0) <sup>%</sup> 90.8	60.0 <sup>%</sup>
	足場丸太	3	88	(34.2) 3.1	0.6	—	—	—	—	3	169	(65.8) 4.0	1.2	6	257	(100.0) 2.7	1.8
	杭・支柱用	9	413	(68.4) 14.4	2.9	1	50	( 8.3) 2.1	0.4	4	141	(23.3) 3.4	1.0	11	604	(100.0) 6.5	4.3
	計	11	2859	(30.5) 100.0	20.1	12	2,340	(24.9) 100.0	16.5	9	4,178	(44.6) 100.0	29.4	14	9,377	(100.0) 100.0	66.0
ひの	製材用	7	1,065	(23.4) 91.5	7.5	11	950	(20.8) 93.1	6.7	7	2,543	(55.8) 96.4	17.9	13	4,558	(100.0) 94.5	32.1
	足場丸太	2	12	(100.0) 1.0	0.1	—	—	—	—	—	—	—	—	2	12	(100.0) 0.3	0.1
	杭・支柱用	6	87	(34.5) 7.5	0.6	1	70	(27.8) 6.9	0.5	2	95	(37.7) 3.6	0.7	7	252	(100.0) 5.2	1.8
	計	9	1,164	(24.1) 100.0	8.2	11	1,020	(21.2) 100.0	7.2	9	2,638	(54.7) 100.0	18.6	13	4,822	(100.0) 100.0	34.0
計	製材用	7	3,423	(26.2) 85.1	24.1	13	3,240	(24.8) 96.4	22.8	10	6,411	(49.0) 94.0	45.1	14	13,074	(100.0) 92.1	92.1
	足場丸太	3	100	(37.2) 2.5	0.7	—	—	—	—	3	169	(62.8) 2.5	1.2	6	269	(100.0) 1.9	1.9
	杭・支柱用	9	500	(58.4) 12.4	3.5	1	120	(14.0) 3.6	0.9	4	236	(27.6) 3.5	1.7	11	856	(100.0) 6.0	6.0
	計	11	4,023	(28.3) 100.0	28.3	13	3,360	(23.7) 100.0	23.7	11	6,816	(48.0) 100.0	48.0	14	14,199	(100.0) 100.0	100.0

(2) 取扱い組合数でみると、製材用はスギ、ヒノキとも14組合中の13組合が取扱っているのに対し、足場用、杭支柱用材を全然取扱っていない組合は多く、特にヒノキにおいて顕著である。

(3) 処分方法別でみると、自己処理施設で製材用に回された量3,423<sup>m</sup>は、小径木処理施設を有する7組合の取扱った間伐材7,948<sup>m</sup>の43%に相当しており、スギでは44%、ヒノキでは40%相当が自家消費されたことになる。

(4) 県森連共販所及び民間市場等へ出荷した製材用素材は9,651<sup>m</sup>で、製材用素材の74%を占めるが、県森連への系統利用は25%に満たない状況にある。

(5) 足場用材、杭支柱用材では、委託治山事業用杭等として森林組合が自家消費した量は720<sup>m</sup>(64%)で、杭の自家消費の割合が高くなっている。

(6) 杭支柱用材を取扱った11組合のうち、小径木加工施設を有する組合は6組合であるが、実際に加工したのは4組合でその量は353<sup>m</sup>である。

杭支柱用材856<sup>m</sup>に対し41%に相当している。

### 3 小径木処理施設での間伐材製材品生産量

(1) 小径木処理施設を有する東栄町、豊根村、稲武町、鳳来町、額田町、足助町、旭町の7森林組合について、製材品の日本農林規格に示す分類により樹種別生産量を調べた結果は表一3に示すとおりで、ひき角類76%、ひき割類13%、板類11%となっている。ひき角類のうちでは正角が94%、平角が6%、ひき割類では正割が73%、平割27%であり、板類では小幅板63%、板27%、厚板10%となっている。

(2) 樹種別にみると、スギ製品77%、ヒノキ製品23%で、スギではひき角類74%、ひき割類14%、板類12%であるのに対し、ヒノキはひき角類83%、ひき割類7%、板類10%となっていて、スギではタルキを主とするひき割類の割合が高く、ヒノキではひき角類の割合が高く、間伐材でも製品では柱材生産が主となっている。

(3) 取扱った森林組合の数でみると、正角は7森林組合全部で取扱い、1組合平均343<sup>m</sup>で生産

表一 3 小径木処理施設での製材品生産の実態

区分	樹種	組合数	生産量	比率		
ひき角類	正角	すぎ	7	1,791 m <sup>3</sup>	69.0 %	
		ひのき	7	610	80.5	
		その他	—	—	—	
		計	7	2,401	71.5	
	平角	すぎ	5	140	5.4	
		ひのき	3	17	2.2	
		その他	1	5	100.0	
		計	5	162	4.8	
	ひき割類	正割	すぎ	2	300	11.6
			ひのき	1	8	1.1
			その他	—	—	—
		計	2	308	9.1	
平割		すぎ	3	66	2.5	
		ひのき	3	46	6.0	
	その他	—	—	—		
計	3	112	3.3			
板類	板	すぎ	4	77	3.0	
		ひのき	3	22	2.9	
		その他	—	—	—	
		計	4	99	2.9	
	小幅板	すぎ	5	188	7.3	
		ひのき	4	49	6.5	
		その他	—	—	—	
		計	5	237	7.0	
	斜面板	すぎ	—	—	—	
		ひのき	—	—	—	
		その他	—	—	—	
		計	—	—	—	
厚板	すぎ	2	32	1.2		
	ひのき	2	6	0.8		
	その他	—	—	—		
	計	2	38	1.1		
計	すぎ	7	2,594	100.0		
	ひのき	7	758	100.0		
	その他	1	5	100.0		
	計	7	3,357	100.0		

品の主体をなしている。正割はわずか2組合で、平均154m<sup>3</sup>の生産となっている。他の品目は平均50m<sup>3</sup>以下と少量生産である。

(4) 正角から厚板までのうち斜面板を除く7品目を生産している組合の数は1、斜面板と厚板を除く6品目の組合が1、斜面板を除く板類とひき角類の5品目が1、ひき角類と平割、小幅板の4品目が1、正角と板、小幅板の3品目が1、ひき角類のみの2品目が1、正角のみの1品目生産が1と組合によって生産している品目は千差万別である。

#### 4 木材市場における小径木流通の実態

(1) 4市場での調査対象とした市場取扱総量(中・大径木を含む)、小径木総量は表4のとおりである。

(2) 図一1、図一2に小径木の樹種別構成を市場毎に示した。設楽、新城ではスギの比率が高く、スギ造林地の多い豊川流域の地域特性が現われている。足助、東海ではスギが少なく、ヒノキが高い比率を示している。

(3) スギヒノキ材の割合は足助で高く、新城、設楽で中庸を示し、東海で極端に少なくなっている。このことは当該市場の選別能力の他に、山元市場では山土場から直接無選別の材が搬入される

表一 4 木材市場における調査対象数量

市場	本 数			材 積		
	市場総取扱量(A)	小径木(B)	比 率 (B/A×100)	市場総取扱量(A)	小径木(B)	比 率 (B/A×100)
東海	859,803	376,333	44 %	88,387.671	10,807.143	12 %
足助	141,546	74,935	53	11,253.229	2,239.496	20
設楽	49,632	27,796	56	4,003.487	950.162	24
新城	76,498	47,553	62	5,595.310	1,526.427	27

割合が高く、消費地市場では、付加価値の低い小径木といえども山元市場で一度選別され市売に付されたものが、再搬入される可能性が高いためと考えられる。

(4) マツ、その他の針葉樹、広葉樹の小径木は、設楽、新城、足助では極くわずかであるのに対し、東海では比較的多く、消費地市場における多様性を示している。

(5) 図-3、図-4に小径木の長さ別構成を示したが、設楽、新城は各長級とも非常に類似した構成を示しており、本数で3m材が20%台であるのに対し、4m材が75%前後を示している。2m以下の短材や5m以上の足場丸太等の長材はほとんど取扱われていない。足助、東海では、3~4m材を除く長短材とも他市場より構成比が高く、ここでも消費地市場としての多様性を示している。

(6) 図-5から図-12に市場総取扱量に対する小径木の割合を市場毎に示した。4市場での総取扱量に対する小径木の割合は、本数では東海の44%が一番小さく、次いで足助、設楽、新城の順で、新城では62%もが小径木で占められている。材積も同様であるが、東海ではわずか12%にすぎず、中大径材の取扱比率の高いことをよく示している。

(7) スギヒノキ込みで選別された材はほとんど小径木で占められ、本数では市場で取扱われたスギヒノキ込材の95~99%は小径木となっている。

(8) 図-13、図-14に小径木のうち特に7cm以下の小丸太の占める割合を示した。一般に7cm以下の小丸太は足場、杭、支柱用等に利用され、製材加工による付加価値の増を期待し難い材であるが、総体的には小径木本数の30%前後がこれら小丸太で占められている。

(9) 市場別では東海が総体的に小丸太の占める比率が高く、前述の樹種、長さに加え、太さにおいてもバラエティーに富んだ商品を扱っていることがわかる。

(10) 図-15、図-16に小径木の主力を占めるスギ、ヒノキ全体の中でスギヒノキ込材がどのような割合を示すかを長さ別に示した。これで見ると、総体的に製材仕向きの3、4m材では選別が良く行われ、長材ではスギ、ヒノキが込みで扱われる比率が高くなっている。又、この図には示されていないが、これに太さを加えて検討した結果は、やはり付加価値のつけ難い小丸太程この比率が高くなっている。

(11) 図-17から図-24までに各市場別に、1極が13cm以下の小径木のみで極積整理されている極がどのような構成をしているかを示した。極積整理されて市売される材は1極が小径木のみで構成されているものと、14cm以上の中径木を一部含んでいたり、主として中径木で構成されているものの中に一部小径木を含んでいたりする。これは1出荷者の出荷量の多少による場合とか、小径木と柱材を一部抱き合せて売る市場の経営戦略であったり、市場の極積整理能力であったり、その理由はいろいろ考えられるが、総体的には東海が91%と最も高く、以下足助75%、新城65%、設楽57%（いずれも本数比）となっている。

(12) 径14cm以上の長材では通し柱として有利に販売されるので長材は本来選別が進み残りの13cm以下の材だけの構成比は高くなるはずであるが、14~18cmの通し柱用材の中に12、13cmの小径木が抱き合わされている場合がみられ、逆に構成比が低下している。新城、東海の6mヒノキ等でこれをうかがい知ることができる。

(13) 図-25から図-28までに各市場における月別取扱量の変化を示した。各市場とも小径木のスギ、ヒノキ、スギヒノキ込み以外の樹種は取扱量がわずかであるため月別変動が大きく表われている。

(14) 新城は9月の定例市売2回のうち1回を休んでおり、東海は熱田市場の素材部門を10月第2

週以後閉鎖して大口市場へ移し、東洋市場の閉鎖に伴う一部浜問屋の参入（1月）等の特殊事情や記念市の開催（新城4月、足助11月）や三河まつりの開催（11月）等により関係市場では平年とは異った月別変動を示した背景を勘案する必要はあるが、山元市場の設楽では6～7月の梅雨期の取扱量が最低となっており、足助、東海では旧盆後の9月が最低となっている。

(15) 図-29から図-40に東海を除く単式3市場の出荷者及び買方の業態別構成を示し、小径木を取扱う人の面からの分析を試みた。総体的には出荷者は各市場の性格に大きく左右されており、設楽では組合自ら行う林産事業による出荷材のほか、組合員である森林所有者や地域の財産区等がほとんどで、素材業者はわずか、製材業者は皆無となっている。新城では、市場自らの集出荷活動を含め一般素材業者、製材業者の参入が多く、森林組合の利用も大きな比重を占めている。一方、足助では現在の共販体制の基となっている傘下の森林組合、旧共販組合の素材業者、製材業者及び公有林（東加茂模範造林組合、賀茂県有林）が主力となっている。

(16) 買方では、大きくは素材業者と製材業者が関与しており、足助では加えて傘下の小径木加工施設を有する森林組合が参入している。

(17) 3市場とも製材業者の占める割合が高くなっており、付加価値の小さい小径木は山元に近い市場から直接加工施設へ搬入される可能性が高いことを推察させる。しかし、設楽と新城の製材業者の占める割合を本数と材積で比べると本数で占める比率の方が材積で占める比率より高いことから、製材業者の買い求めた材は相対的に細いものになっている。又、新城の本数計についてみると、素材業者の取扱った本数は小径木の46%を占めている。一方、前述の図-13関連の分析で、スギ、ヒノキ等の小径木のうち7cm以下の小丸太の占める割合

は31%となっており、仮りに7cm以下は杭等丸太利用材、8cm以上は製材加工用材に利用すると仮定すると、15%の製材仕向材が素材業者によって取扱われたことになり、このことは素材業者が製材業者へ仕向けるため仲介の労をとっているか、第2の消費地市場へ再出荷している等製材業者の手に入るまでに一手余分にかかっているものと推察される。

(18) 図-41から図-44に各市場における小径木の流れを示した。本来、材の流れとは生産地からどのように人手、市場を経由して消費者に渡るかの経過を明らかにすることと考えるが、今回の調査の中で各素材の生産地、消費地を特定することは困難なので、ここでは小径木を取扱う人の面からとらえ、出荷者の住所と買方の住所をもって小径木の流れとした。

(19) 設楽では地元での生産、消費の色彩が極端に強く、全体の87%は地元で消費され、新城、東三河を加えた豊川流域でほぼ100%を占めている。

(20) 新城では地元出荷が75%、次いで設楽の17%と豊川流域が占め、長野、静岡の天竜川流域で5%弱を占めている。県外から出荷された材は5%であるがこの県外材が県外の買方に引取られた量はわずか0.04%である。樹種別ではヒノキはスギよりも地元集中している。又買方は東三河42%、新城39%、静岡16%の三地域で大半を占めている。

(21) 足助での出荷は地元足助地区で79%、豊田19%、設楽2%となっており、矢作川流域で殆んど占められている。一方買方は設楽、新城に比べ広範に及び、総体では設楽19%>名古屋市>尾張>西三河>足助14%の順になっており、地元消費の割合は小さくなっている。県外から出荷された材はわずか0.1%で県外材が県外の買方に引取られた量は皆無である。樹種別にみると、スギでは尾張26%>設楽>足助>三重県>西三河12%、ヒ

ノキでは名古屋市25%＞設楽＞東三河＞足助＞西三河9%、スギヒノキ込みでは西三河22%＞足助＞尾張＞設楽＞名古屋市15%の順になっている。

(2) 東海では前三者より更に出荷者、買方共に広域に及び分散化の色彩が強くなっている。小径木全体では出荷者は長野県30%＞名古屋市＞岐阜県＞その他＞静岡県8%、買方は三重県53%＞名古屋市＞尾張＞岐阜県＞西三河4%となっており、出荷材の75%は県外者によって取扱われており、引取材の59%は県外の買方によって取扱われている。スギの出荷者は名古屋市24%＞長野県＞岐阜県＞その他＞静岡県5%、買方は三重県51%＞名古屋市＞海部＞尾張＞その他3%の順、ヒノキでは出荷者は長野県34%＞岐阜県＞その他＞静岡県＞名古屋市8%、買方は三重県62%＞名古屋市＞尾張＞岐阜県＞西三河3%の順、スギヒノキ込みでは出荷者、名古屋市29%＞長野県＞岐阜県＞静岡県＞その他7%、買方、名古屋市32%＞三重県＞尾張＞岐阜県＞海部5%の順となっている。取扱われた小径木の内、県外から出荷され、県外へ買取られた材は小径木の48%を占めている。

#### IV おわりに

本調査を実施するに当たり、種々御協力を頂いた設楽町、東栄町、豊根村、富山村、津具村、稲武町、新城市、鳳来町、作手村、額田町、小原村、足助町、下山村、旭町の各森林組合並びに愛知県森林組合連合会足助林産物共販所、東海木材相互市場、新城木材市売株式会社の関係各位に厚く御礼を申し上げます。

#### V 参考文献

(1) 愛知県農地林務部：昭和60年度愛知県林業統計書

(2) 愛知県農地林務部林務課：昭和60年度森林組合の概要

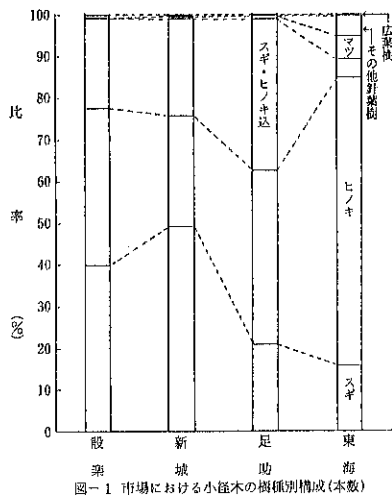


図-1 市場における小径木の樹種別構成(本数)

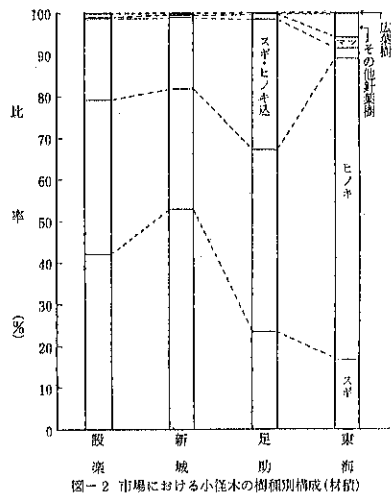


図-2 市場における小径木の樹種別構成(材積)

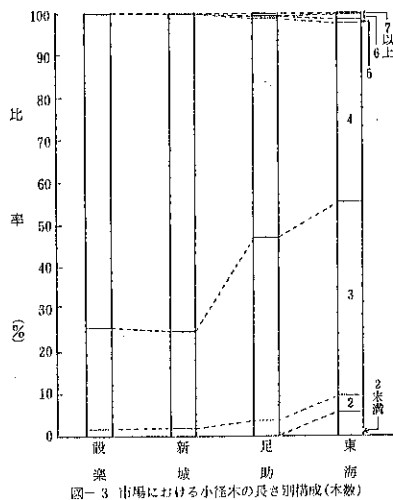


図-3 市場における小径木の長さ別構成(本数)

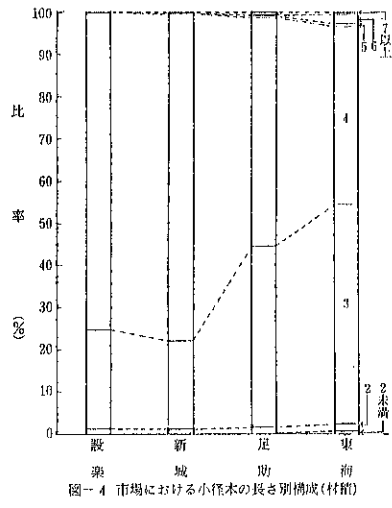


図-4 市場における小径木の長さ別構成(材積)

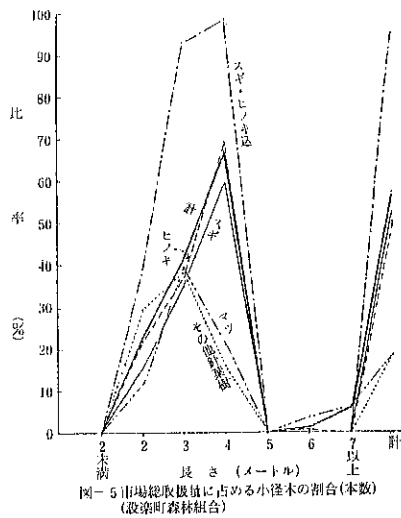


図-5 市場総取引量に占める小径木の割合(本数) (股楽町森林組合)

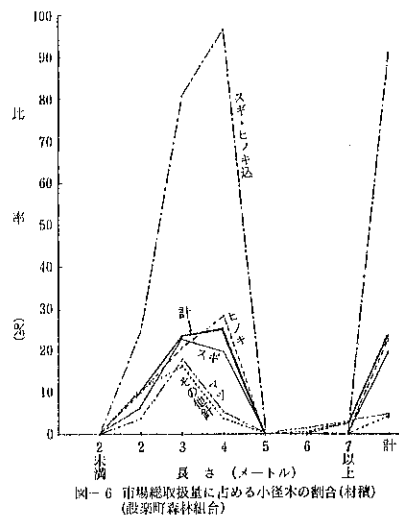


図-6 市場総取引量に占める小径木の割合(材積) (股楽町森林組合)



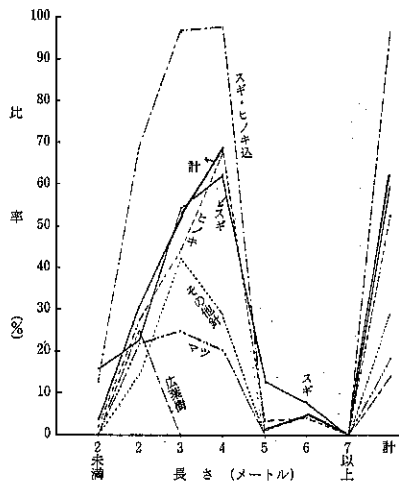


図-7 市場総取扱量に占める小径木の割合(本数)  
(新城木材市売株式会社)

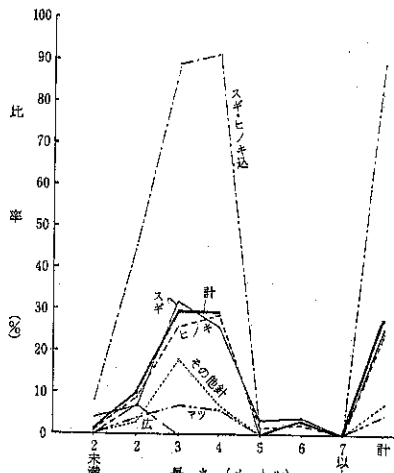


図-8 市場総取扱量に占める小径木の割合(材積)  
(新城木材市売株式会社)

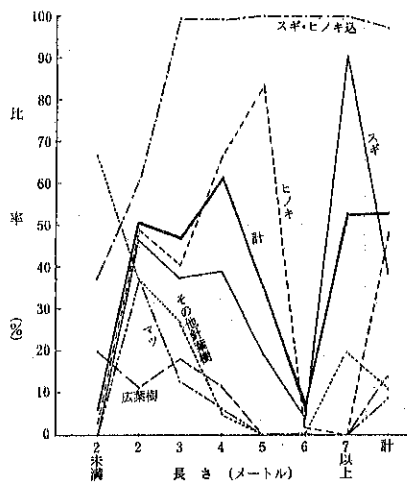


図-9 市場総取扱量に占める小径木の割合(本数)  
(愛知県森林組合連合会足助林産物共販所)

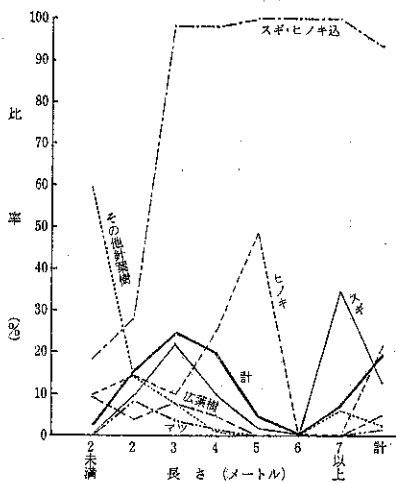


図-10 市場総取扱量に占める小径木の割合(材積)  
(愛知県森林組合連合会足助林産物共販所)

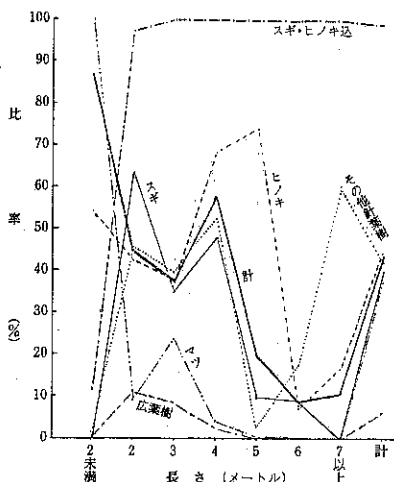


図-11 市場総取扱量に占める小径木の割合(本数)  
(東海木材相互市場・大口市場)

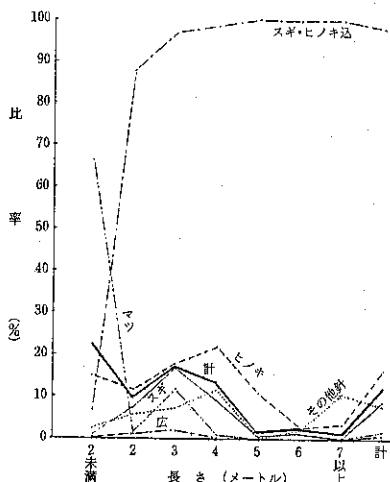


図-12 市場総取扱量に占める小径木の割合(材積)  
(東海木材相互市場・大口市場)

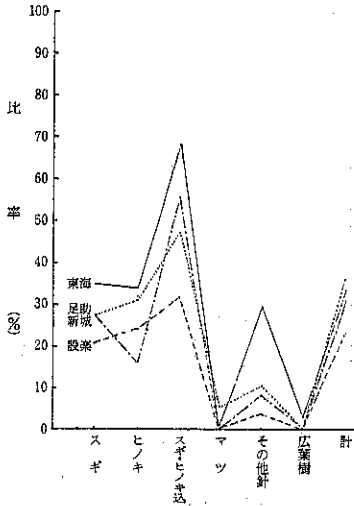


図-13 小径木のうち  $7\text{ cm}$ 以下の小丸太の占める割合(本数)

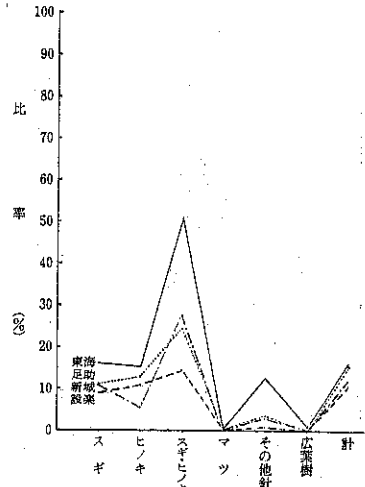


図-14 小径木のうち  $7\text{ cm}$ 以下の小丸太の占める割合(材積)

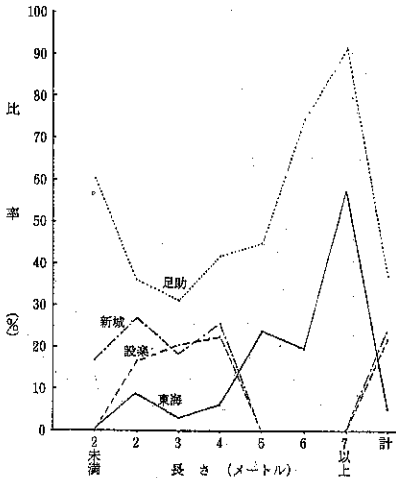


図-15 スギ・ヒノキの中に占めるスギ・ヒノキ込の割合(本数)

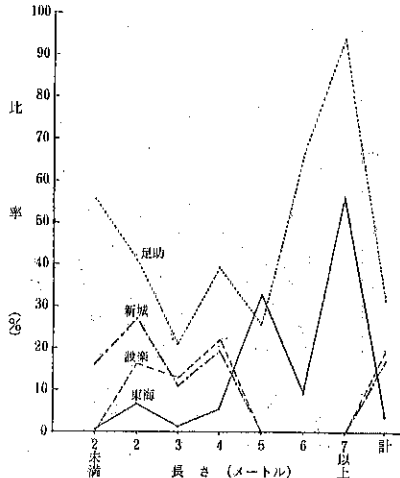


図-16 スギ・ヒノキの中に占めるスギ・ヒノキ込の割合(材積)

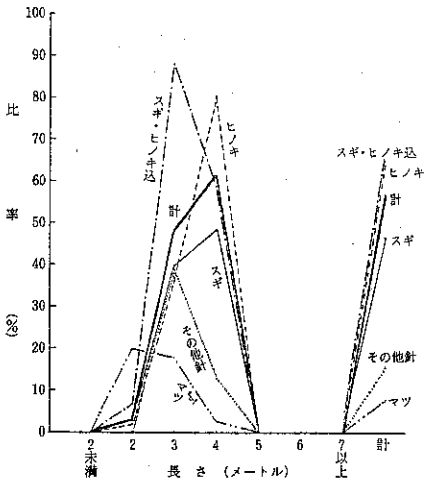


図-17  $13\text{ cm}$ 以下の材のみで構成されている木の樹種別長さ別割合(本数) (設楽町森林組合)

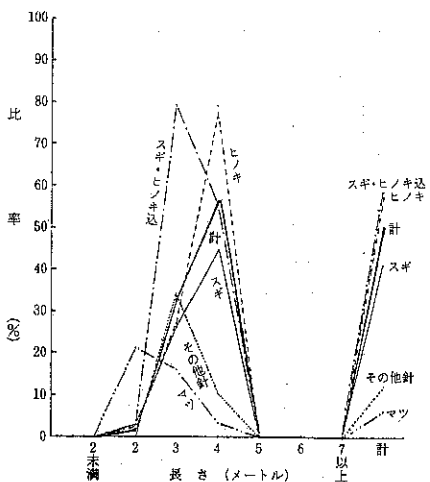


図-18  $13\text{ cm}$ 以下の材のみで構成されている木の樹種別長さ別割合(材積) (設楽町森林組合)

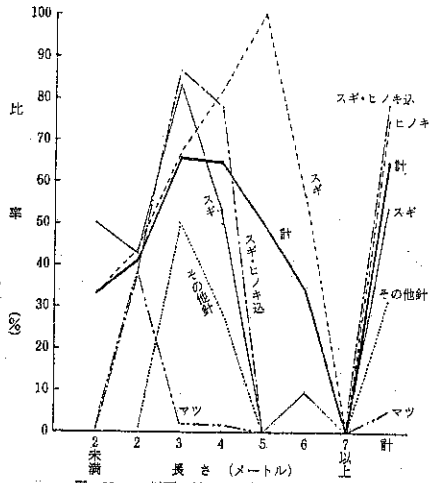


図-19 13cm以下の材のみで構成されている種の樹種別長さ別割合(本数)  
(新城木材市売株式会社)

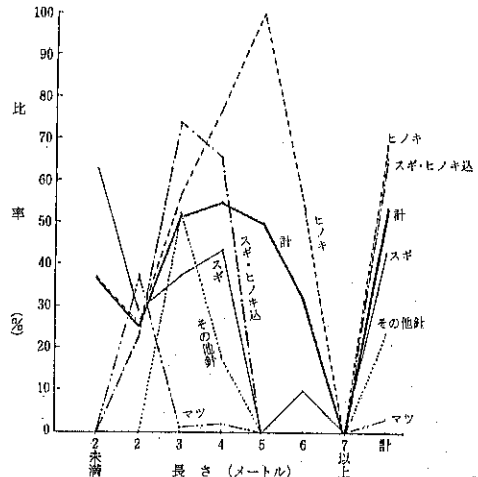


図-20 13cm以下の材のみで構成されている種の樹種別長さ別割合(材積)  
(新城木材市売株式会社)

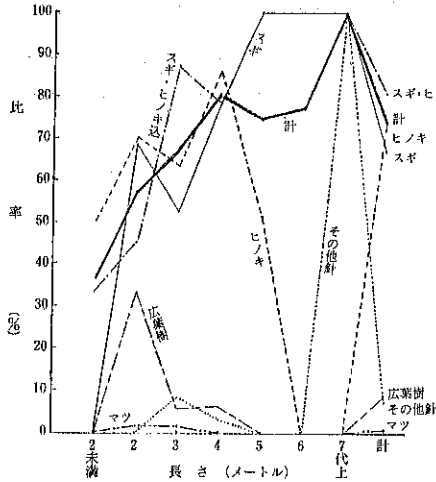


図-21 13cm以下の材のみで構成されている種の樹種別長さ別割合(本数)  
(愛知県森林組合連合会足助林産物共販所)

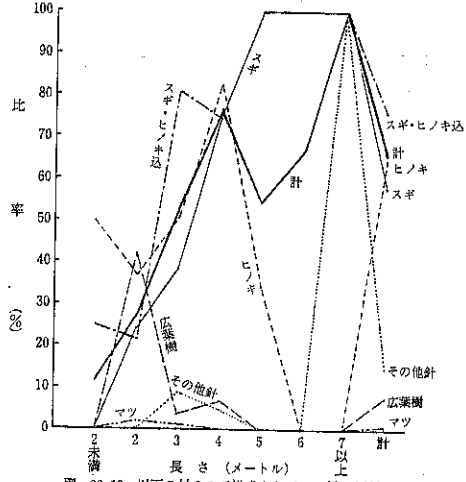


図-22 13cm以下の材のみで構成されている種の樹種別長さ別割合(材積)  
(愛知県森林組合連合会足助林産物共販所)

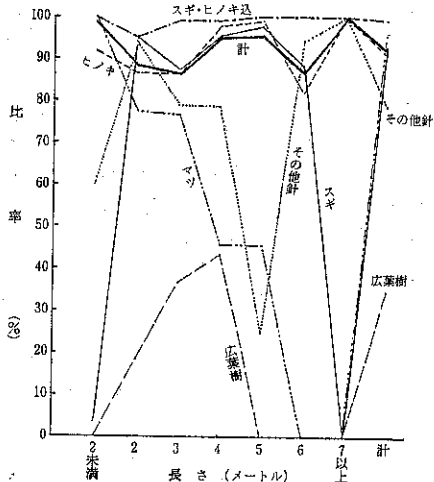


図-23 13cm以下の材のみで構成されている種の樹種別長さ別割合(本数)  
(東海木材相互市場・大口市場)

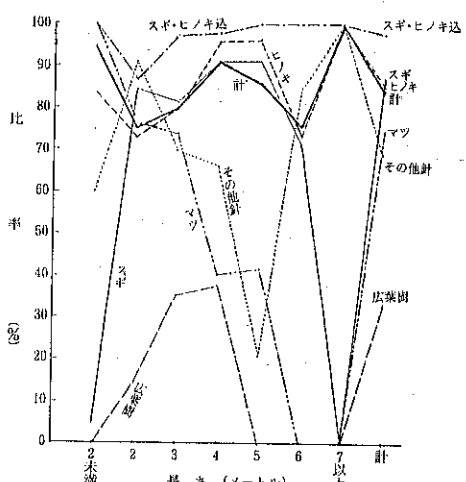
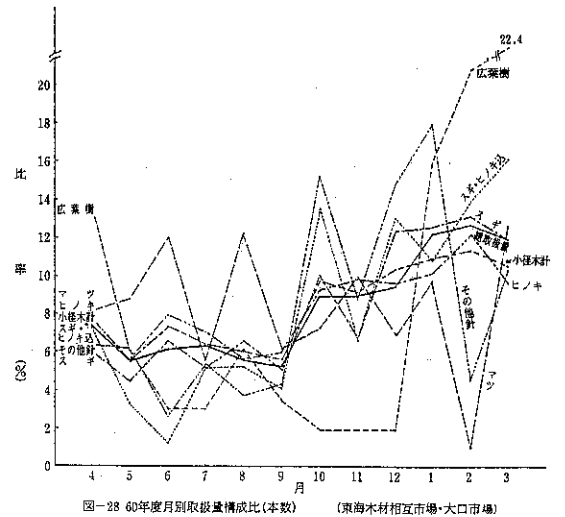
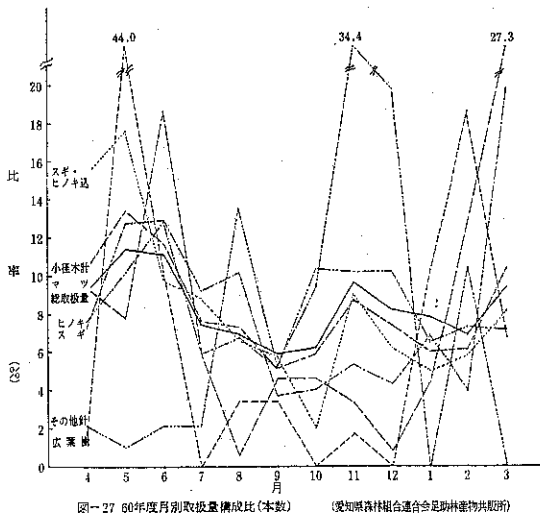
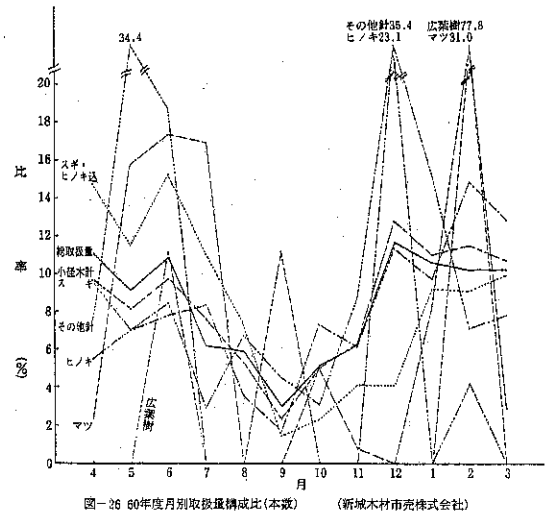
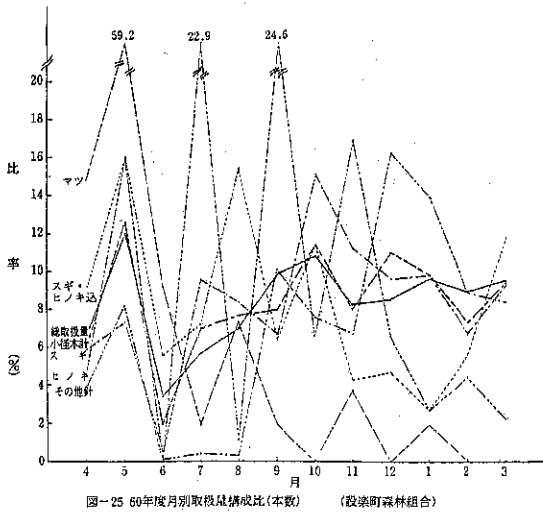


図-24 13cm以下の材のみで構成されている種の樹種別長さ別割合(材積)  
(東海木材相互市場・大口市場)



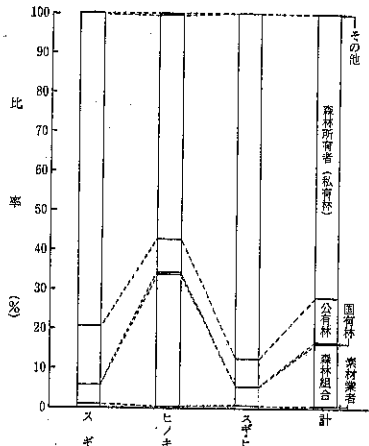


図-29 小径材出荷者の業態別構成(本数)  
(設楽町森林組合)

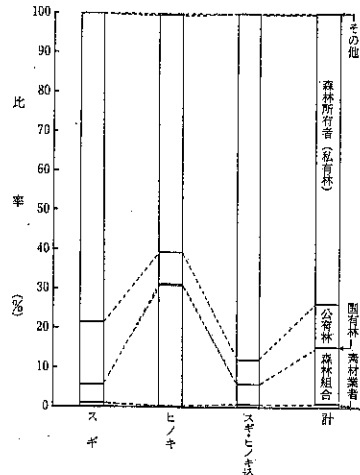


図-30 小径材出荷者の業態別構成(材積)  
(設楽町森林組合)

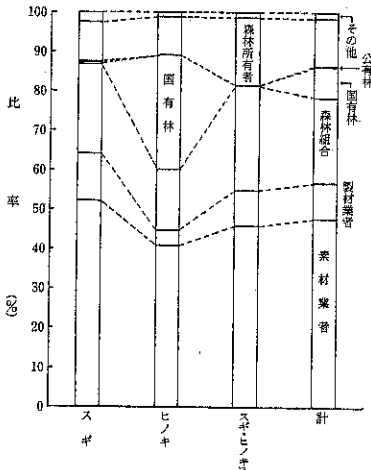


図-31 小径材出荷者の業態別構成(本数)  
(新城木材市売株式会社)

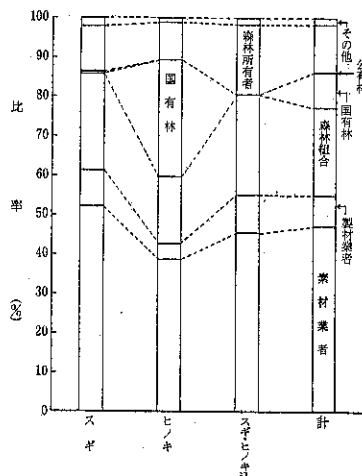


図-32 小径材出荷者の業態別構成(材積)  
(新城木材市売株式会社)

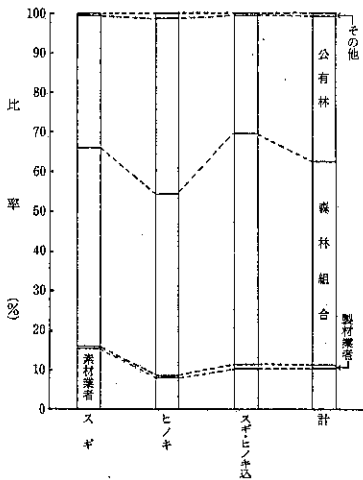


図-33 小径材出荷者の業態別構成(本数)  
(愛知県森林組合連合会足助林産物共販所)

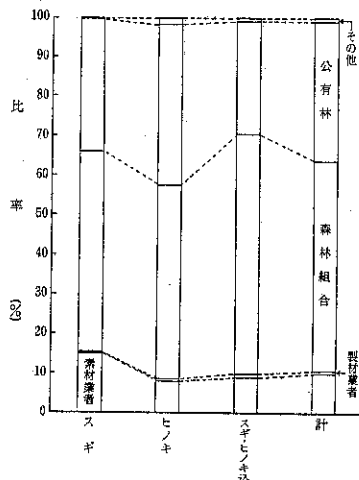


図-34 小径材出荷者の業態別構成(材積)  
(愛知県森林組合連合会足助林産物共販所)

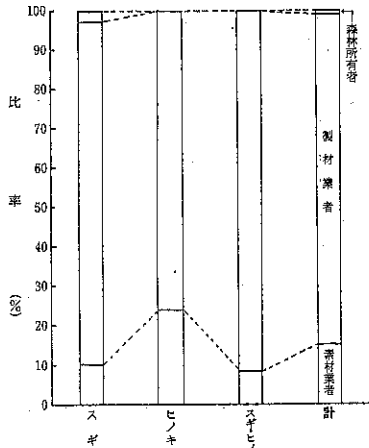


図-35 小径材買方の業態別構成(本数)  
(股栗町森林組合)

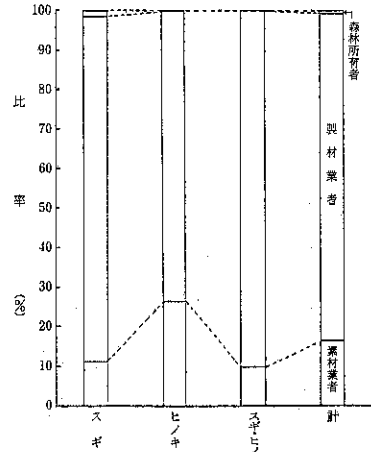


図-36 小径材買方の業態別構成(材価)  
(股栗町森林組合)

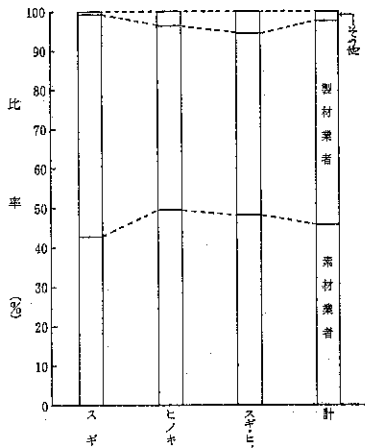


図-37 小径材買方の業態別構成(本数)  
(新城木材市売株式会社)

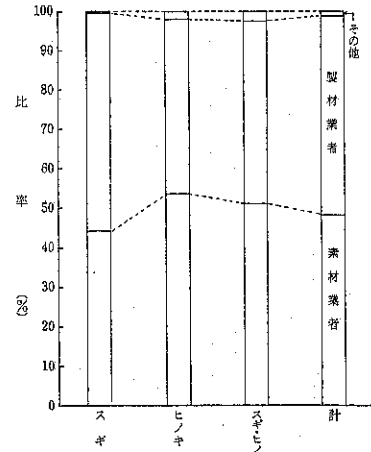


図-38 小径材買方の業態別構成(材価)  
(新城木材市売株式会社)

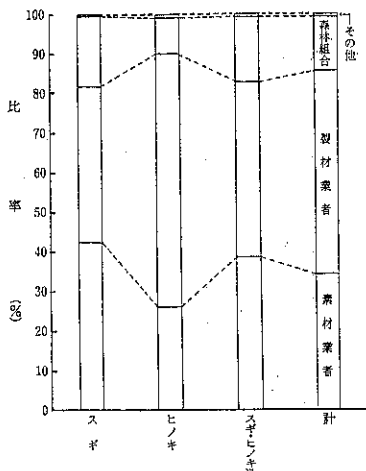


図-39 小径材買方の業態別構成(本数)  
(愛知県森林組合連合会足助林産物共販所)

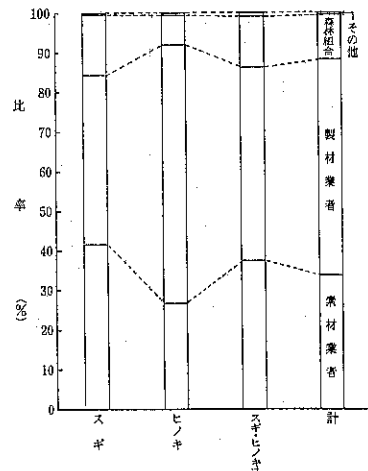


図-40 小径材買方の業態別構成(材価)  
(愛知県森林組合連合会足助林産物共販所)

荷主 買方	名古屋市	尾張	海部	知多	西三河	豊田	足助	設楽	新城	東三河	県計	静岡県	長野県	岐阜県	三重県	関東	中部	関西	その他	計
名古屋市																				
尾張								×			×									×
海部																				
知多																				
西三河								○			○									○
豊田																				
足助																				
設楽								■	○		■									■
新城								■	■		■									■
東三河								■	■		■									■
県計								■	○		■									■
静岡県																				
長野県																				
岐阜県																				
三重県																				×
関東																				
中部																				
関西																				×
その他																				
計								■			■									■

図-41 小径木の流れ(本数) (設楽町森林組合)

荷主 買方	名古屋市	尾張	海部	知多	西三河	豊田	足助	設楽	新城	東三河	県計	静岡県	長野県	岐阜県	三重県	関東	中部	関西	その他	計	
名古屋市																					
尾張																					
海部																					
知多																					
西三河						×		○	■		■	×	○							■	
豊田								○	○		○									○	
足助																					
設楽								○	■		○									○	
新城	○					○	○	■	■	×	■	○	■	×						○	
東三河	○					○	○	■	■	○	○	○	○	×						○	
県計	○					○	○	■	■	○	○	○	○	×						○	
静岡県	○					×		■	■	○	○	○	○	×						○	
長野県						×		○	○		○									○	
岐阜県								○	○		○									○	
三重県																					
関東																					
中部																					
関西																					
その他																					
計	○					○	○	■	■	○	○	○	○	×						○	

凡 例	
50%以上	■
40%以上50%未満	◼
30%以上40%未満	◻
20%以上30%未満	▨
10%以上20%未満	▩
5%以上10%未満	▪
1%以上5%未満	▫
0.5%以上1%未満	○
0.1%以上0.5%未満	○
0.05%以上0.1%未満	○
0.01%以上0.05%未満	×
0.01%未満	□
該当なし	□

図-42 小径木の流れ(本数) (新城木材市売株式会社)

荷主 買方	名古屋市	尾張	海部	知多	西三河	豊田	足助	設楽	新城	東三河	県計	静岡県	長野県	岐阜県	三重県	関東	中部	関西	その他	計	
名古屋市																					
尾張																					
海部																					
知多																					
西三河																					
豊田																					
足助																					
設楽																					
新城																					
東三河																					
県計																					
静岡県																					
長野県																					
岐阜県																					
三重県																					
関東																					
中部																					
関西																					
その他																					
計																					

図-43 小径木の流れ(本数) (愛知県森林組合連合会足助林産物共販所)

荷主 買方	名古屋市	尾張	海部	知多	西三河	豊田	足助	設楽	新城	東三河	県計	静岡県	長野県	岐阜県	三重県	関東	中部	関西	その他	計	
名古屋市																					
尾張																					
海部																					
知多																					
西三河																					
豊田																					
足助																					
設楽																					
新城																					
東三河																					
県計																					
静岡県																					
長野県																					
岐阜県																					
三重県																					
関東																					
中部																					
関西																					
その他																					
計																					

図-44 小径木の流れ(本数) (東海木材相互市場・大口市場)